

# 宮崎県総合博物館 第2期中期運営ビジョン評価表（令和元年度）

評価欄の数値は4段階評価数値

内部評価 4…指標を大きく上回った 3…指標を達成できた 2…指標をやや下回った 1…指標を大きく下回った

外部評価 4…期待以上できた 3…ほぼ期待どおり 2…やや期待を下回る 1…改善が必要

※外部評価は、宮崎県博物館協議会委員による評価

## (1) 調査研究

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
①調査研究方針・計画	達成率	100%	61%	<p>・学芸課職員が個別に研究テーマを設定して行う個別（テーマ）研究と、全部門合同で行う総合調査研究（小丸川水系）とがある。総合調査では、今年度は、小丸川水系の報告書を作成し、一方で五ヶ瀬川水系の予備調査を行った。他の業務と調整しながら、進めている関係で十分な予備調査ができていない。報告書については館外の研究者との共同調査報告や調査研究報告等によって発行できた。</p> <p>・次年度は、これまで個別研究と水系別総合調査研究（五ヶ瀬川・北川）を別に設定し、調査研究を行ってきたが、次年度以降は部門内でテーマ統合しながら、調査研究の効率化を図る。さらに、各部門で毎月1回以上の調査研究日を設定し、業務の調整を行いながら、調査研究に取り組み、学芸課内会などで実施状況を確認する。</p>	2	<p>①小丸川流域調査の報告書が作成され、貴重なデータを見ることができた。また、次期テーマの予備調査が行われた。今年度も新型コロナウイルス感染症対策の影響を受けるであろうが、業務のバランスを取りながら取り組んでいただきたい。</p> <p>②調査研究方針・計画において、小丸川水系の総合調査の報告書を作成し、五ヶ瀬川水系の予備調査を実施した。報告書の作成については、館外研究者との共同調査が実施できたこと、そのノウハウは高く評価したい。</p> <p>③調査研究成果公表は、研究の紀要の発刊、調査研究報告会は継続している点、特に小丸川水系調査報告書は自然史、歴史等の解明に大きな貢献を期待しているなど、地域の調査研究の発展には、中心的役割を示すものと評価したい。</p> <p>④研究紀要をしっかりと刊行されたこと、報告会を実施されたことは良かった。</p> <p>⑤今後は各部門で調査研究の日程確保を図られるとのこと、また課内会などで実施状況を核にされることで、今後の着実な調査研究の進捗を期待する。</p> <p>⑥研究紀要第40輯及び小丸川水系調査報告書には各研究分野の成果が多く盛り込まれており、有益な内容となっている。多忙な館内業務との調整を図りながら、一層の研究の深化を期待します。</p> <p>⑦博物館研究報告、小丸川水系調査報告を読ませていただいておりますが、よくやっていると思います。</p> <p>⑧ビジョン4項目に共通する調査研究が研究紀要に良く反映されている。3月の調査研究報告会では「限られた時間の中で研究をすすめている。是非その姿勢を支援していきたい・・・」といった趣旨の黒木館長の挨拶された思いに伝えるかのような内容であった。いつもこの会では思うが、もったいないような短い時間、他の機関（学校、研究会等々）でも是非発表もしてもらいたい。</p> <p>⑨学芸課による調査研究報告会の目的は学芸課職員のプレゼン能力の向上のためと聞くが、参加してみると、短い報告のなかにも展示や講座、イベントのアイデアへのヒントが詰まっているように感じる。せっかく展示解説員も視聴しているのだから、彼らと意見交換する機会にははどうだろう。</p>	3
	研究紀要の発刊	年1回	年1回	<p>・3月に7論文・研究ノートからなる「研究紀要第40輯」を発行できた。また11論文からなる小丸川水系調査報告書を紀要と合本で発行できた。本県の自然史、歴史等の解明に大きな貢献が期待できるものであった。</p> <p>・次年度の研究紀要では、水系別総合調査研究（五ヶ瀬川・北川水系）の成果の一部の報告も掲載する予定である。</p>	4		
②調査研究成果の公表	調査研究報告会	年1回	年1回	<p>・3月に職員11名が調査研究の結果や収蔵資料に関する内容、アウトリーチ活動に関する内容についての報告を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため館内の職員研修として実施し、職員のほか博物館協議会委員にも参加いただき、所期の目的を十分に達成できた。</p>	3		

(2) 収集・保存

項目	評価指標		元年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①収集・管理	資料の収集	2,500点 (年平均500点)	2,101点	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集、図書・文献の収集、デジタルデータ、収集資料の整理・登録、デジタルミュージアム登録数については、年平均の目標値を上回ったが、資料の登録数は収集数を下回った。</li> <li>内容については、動物部門ではハナバチ類の乾燥標本やオオサンショウウオの剥製・骨格標本、植物部門ではヒラタケのレプリカ、地質部門では五ヶ瀬町祇園山産床板サンゴ類化石及び、川南町伊倉浜海棲古生物化石、歴史部門では黒木親慶が身に付けていた軍服や使用していた旅行鞆、講演記録、飯野村役場事務引継書や多数の写真、民俗部門では宮崎県オールみやぎ営業課から移管された大漁旗、都城弓など、今後活用できる価値の高い資料を収集することができた。</li> <li>収集・登録した資料は適切な環境下で保存し、展示や体験用に活用する予定である。今後も引き続き資料の所在情報の収集や館外調査を実施し、重要な資料の収集に取り組むとともに、未登録資料の整理・登録を行う。</li> <li>5年間の収集では、52,574点となり、すべての項目で目標値を上回った。非常に貴重な資料を収集できた。</li> </ul>	3	3	<p>①資料、文献、データ等の収集は目標値を大きく超えており、また質的にも成果を高く評価できる。登録・整理に関しては、多忙な業務の中で十分な時間を割けないものと推測するが、資料の利用の点から重要であるので、引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>②1)の収集・管理ならびに2)保存は、十分に機能し保存ができていると思われる。月に一度のチェックも十分に確保されている。等々を考慮して内部評価と同等との評価をしたい。</p> <p>③保存のための燻蒸等の取組が着実に実施できていることは良かった。</p> <p>④収集される点数は良いが、登録数が収集数より下回ると、未登録資料が累積するばかりであり、この傾向は昨年度に限ったことではないように感じている。十分な体制がとられることを期待する。</p> <p>⑤資料の収集・保存ができるのは、博物館に対する信頼度の高さでもある。今後さらに連携と情報発信を願いたい。</p>	3
	図書・文献の収集	5,000点 (年平均1,000点)	1,045点					
	デジタルデータ(写真・映像等)の収集	5,000点 (年平均1,000点)	2,218点					
	収集資料の整理・登録	4,000点 (年平均800点)	3,947点					
	デジタル・ミュージアム登録数	1,000点 (年平均200点)	208点					
	(合計)	(年平均3,500点)	9,519点					
②保存	燻蒸	年1回	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>本館では平成23年度からIPM(総合的虫菌害管理)の考えを取り入れた資料保存に取り組んでいる。令和元年度も全職員によるIPMウォッチング、学芸課担当職員によるモニタリング調査を計画どおり実施することができ、日常の点検も丹念に実施し、虫菌害の発生を抑制した。</li> <li>月に一度、適切な環境を維持するために学芸課職員による収蔵庫の目視・清掃を確実に実施することができた。</li> <li>9月の燻蒸期間には、収蔵庫内の燻蒸及び展示室内の簡易燻蒸(殺虫等処理)を計画どおり実施した。その際、常設展示室内の虫菌害発生のおそれがある資料については、収蔵庫に移動して燻蒸し、殺虫・殺カビ処理を行った。なお、燻蒸期間中は立ち入り禁止区域を設定し、館外でのガス漏れ計測を行うなどの万全の安全対策を行った。</li> <li>10月以降に大型資料を収集したため、3月に専用トラックによる包み込み燻蒸を実施した。</li> </ul>	3			
	簡易燻蒸(殺虫等処理)	年1回	1回					
	トラップ調査	年12回	12回					
	IPMウォッチング	年12回	12回					

(3) 展示

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価		
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①入館者数	本館入館者数	80万人 (年平均16万人)	83,603人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本館の入館者数については、例年10万人程度で推移している。令和元年度においては、空調設備改修工事と新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止となり、例年と比べ、大幅に入館者数が減少し、目標値である16万人を超えることはできなかった。</li> <li>・現在、常設展示室における資料入替え、1階エントランスホールや2階ロビーを活用したロビー展の開催、展示解説員による展示解説や団体案内などのサービスの向上やSNSを活用した情報発信を行っている。</li> <li>・今後も引き続き、特別展をはじめ魅力ある企画を展開していく。</li> <li>・さらに、外国人観光客に対応するため、常設展示室への多言語音声ガイドシステムの導入や本館1階にフリーWi-Fiを整備するなど、インバウンド対応を行った。</li> <li>・5年間で年平均16万人にはいずれの年も及ばず、5年間の入館者は56万8千人であった。</li> </ul>	1		<p>①改修工事による特別展未開催やコロナ禍による休館の中ではよく取り組まれていたと思う。SNS等で手軽に情報が得られる現在（“本物”に接する機会とは限らないのですが・・・）必ずしも目標値数との対比だけが評価とは思っていない。「空調設備改修工事で、夏の特別展が開催できなかった事で、例年のこの期の入館者数（平均）と今回はどれ位減っているか。」「3月はじめからの小・中・高校の全国一斉臨時休校をも含めて、この時期、例年の入館者数（平均）と今回はどれ位違うか。」については、分析・検討は必要である。</p> <p>②今後、感染症の拡大や「新しい生活様式」がさけられる中、特別展等が開催できなくなった場合、また、入館者制限を考えなければならぬ場合にどう展示（常設展も含め）を生かしていくかを考えてみる必要があると思う。</p> <p>③アンケートによる満足度は評価すべきである。また、アンケート記入者は関心も高い。そして足を運んだ人は何か新しい発見、感じるものや思う事があると思う。その事の為に準備や環境づくりに敬意を表すると共に、今後共引き続き、よろしく取り組んでいただきますようお願いいたします。</p> <p>④常設展示をリニューアルして10年以上経過してからも入館者数が減少傾向を示さず、一定水準を保っているのはさまざまな努力の賜物、と高く評価できる。新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は今後も続く予想されるが、その対応策として令和二年度に打ち出された「おうちでみやはく」のベースとなるSNS広報を開始したのは不幸中の幸いであった。今後は、有事に備え「来館者」に代わる「ネット訪問者」の獲得を視野に、博物館機能である蓄積を生かしたネットコンテンツの充実が望まれる。</p> <p>⑤令和元年度は、空調設備の工事や新型コロナウイルス感染拡大防止への対応で、入館者数が目標を大きく下回ったが、令和二年度は、新型コロナの影響により更なる入館者数の減少が見込まれる。</p> <p>当分の間は、新型コロナへの対応としての新しい生活様式を取り入れた厳しい状況下での博物館運営を行っていくことになると思うが、本県の教育・文化の向上を図るといふ博物館の目的を達成するため、事業のあり方・進め方について工夫をし、安全を確保しつつ、少しでも多くの県民に利用してもらうための取り組みを進めて欲しい。</p> <p>⑥新型コロナウイルス感染拡大の為、中止になったのは残念ですが、仕方のない事だと思う。実は3月に団体で見学に入ったが、コロナの為、ガイドが中止になり残念でした。初めて入館する人にはやはりガイドが必要と感じました。又、民家園には数回行きましたが、1回もガイドの説明は聞いた事がありません。ガイドは実施してないのでしょうか。詳しく知りたい気がします。</p>	
	民家園入園者数	25万人 (年平均5万人)	48,372人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国重要文化財・県指定有形文化財の民家を活用した伝統文化体験講座をはじめ、神楽公演、レコードコンサートなどの各種事業が好評であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による3月のイベント中止等のため、目標値の5万人は下回った。</li> <li>・令和元年度より民間主体による民家園利用事業制度を本格的にスタートさせ、多くの利用があった。今後も文化財の保護に留意しながら利活用を一層進めていく必要がある。</li> <li>・5年間の入園者は23万2千人であり、目標値には届かなかったが、H29・H30は年平均値を上回った。</li> </ul>	2			2

②常設展	展示替等回数	年5回	19回	・自然史展示室では地質部門が鉱物（孔雀石・クリード石等）の展示替えを、歴史展示室では考古部門が弥生土器等、歴史部門が小村寿太郎に関する資料の展示替えを、民俗展示室では佐土原人形の展示替えを行うなど、幅広い年代の要求に対応しながら収蔵資料の活用に努めた。	4	<p>⑦特別展示は、主催事業「第39回SSP展」、「特選！蔵出し展」の2回、貸館「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」1回、都合3回であったので目標に達したが、「空調設備改修工事と新型コロナウイルス感染症拡大により、夏の特別展、博物館講座やイベントなどが中止」となり、入館者数は目標に及ばなかったとあり、内部評価は個別は1、総合は2とある。まず夏の特別展中に改修工事が行われることは当初からおり込み済みでは、また、コロナ禍による行事中止はやむを得ないこと、それらが入館者減の理由としているが、真実は企画力の問題ではないだろうか。</p> <p>⑧貸館「ネコ展」は平成27年度（4.3万人）、同30年（3.2万人）に開催、館活用にある程度貢献しているといえるが、何故か令和元年度は記載がなく期待したほどの入館がなかったのか。</p> <p>⑨「特選！蔵出し展」（1.2万人）は平成27年（5.7千人）にも開催し、観覧者が倍になっているからそれなり有意義と言えるが、単に収蔵資料を紹介しただけという印象はぬぐえない。収蔵資料紹介であれば自然史、歴史、民俗など部門毎のエントランス展示でもよいのではないだろうか。また、「SSP展」は日本自然科学写真協会の写真展示が主で、純然たる主催事業と言えないのではないだろうか。要は当初あげた開催回数の達成如何ではなく、展示内容つまり研究発表であろう。「むしムシ虫展」「日本刀の美と歴史」「賀来飛霞のみた自然と歴史」などのような「県民が見たい」「県民にアピール」する企画を期待する。</p> <p>⑩「第39回SSP展」では、写真作品と関連づけて置かれた当館資料が意外な効果を生んでいた。資料により被写体の実際の大きさや質感を知ること、接写や決定的瞬間の把握といった撮り手の技術や視点が明確になり、まさに「科学の眼」への気づきを促す展示が実現した。「蔵出し展」は職員選りすぐりの資料で展開する博物館らしい展示。自分の知らないことばかりで、改めて「博物館とは、学びの多様性を体験する空間」と実感した。なお、求められる「学びの多様性」は時代とともに変化する。今後は、「災害」などもキーワードになりそうだ。</p>
③特別展	実施回数	年3回	主催事業 2回 貸館事業 1回	・主催事業として、巡回展「第39回SSP展」、本館が独自に企画した「特選！蔵出し展」の2回、貸館事業として、「岩合光昭の世界ネコ歩き写真展」（主催：宮崎日日新聞社、UMKテレビ宮崎）の1回を実施し、年3回の目標に達したが、空調設備改修工事のための夏の特別展は開催できなかった。 ・本館内で実施した主催事業に係る来場者の満足度は、アンケートによると「良かった」以上が「第39回SSP展」では91%、「特選！蔵出し展」では92%であり、高い評価をいただいた。	3	
④ロビー展	実施回数	年12回	16回	・エントランス・ロビー展示を、期間・内容・場所のバランスを取りながら全16回実施した。内訳は各部門の企画展示12件、博物館友の会の企画展示1件、県その他機関・学校の展示3件であった。各部門の展示に際しては、関係機関3箇所より協力を得て実施した。	4	
					⑪事情により特別展が開けないとき、「高校野球展」や「新みやぎ化石展」などをフットワーク軽く開催したのはよかった。	

(4) 教育普及

項目	評価指標		元年度実績	内部評価		外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見
①学校教育支援	学校受入校数	年200校	203校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校受け入れ校数は203校と前年度の229校を下回ったが、今年度の目標値は達成できた。資料貸出し校数、授業支援については、目標値を達成できなかったが、職場体験受入れ、職員研修受入れ数は目標値を達成できた。</li> <li>・授業支援は昨年より1校増え、7校で実施した。宮崎北高等学校の支援など県外研修を含め、複数日数実施した学校もあり、支援回数は13回であった。</li> <li>・個々の分野では、達成できなかったところも見られたが、全体的には概ね達成できた。</li> <li>・今後も計画的に学校教育支援に取り組むとともに、校長会や館で実施される職員研修会などの機会を通じて、博物館の学校支援のメニューや有効性、資料貸し出しの説明を行い、周知を図る。</li> </ul>	3	<p>①学校教育支援など目標に向かっての試みは、よく努力されていると思います。展示解説・・・興味を持って自分から声をかけて聞くことがむずかしいので積極的に声をかけられてもよいのではと思います。</p> <p>コロナのことなどあり、むずかしい面もあり、御苦労もあったことでしょう。</p> <p>②全体的に様々な課題に対し、新たな取組を実施し、形にしている。また、現状に対し、さらなる取組をしめしているので評価がしやすかった。コロナに対しての課題(実施できなかったetc.)は、やむを得ないとする。だからこそ、これから何ができるか、新たに模索していくことこそが、課題解決につながると思えました。</p> <p>③学校教育支援、展示解説、博物館講座等、それぞれ目標値が達成された項目と達成されなかった項目があるが、職員の皆さんの内容の工夫や広報活動の工夫がうかがわれる。</p> <p>④コロナウイルスの感染拡大防止として、様々な催しが中止されたため、仕方がないことだと受け止めた上で、2の評価と致しました。新しい生活様式下における教育普及のあり方を新たな視点でくみおしていく必要があると思えました。博物館に足を運ばなくても行えるリモートによる校外学習や博物館のイベントのリモート観覧、ライブイベントの視聴等新たな楽しみ方、学び方を提案していくとよいのではないのでしょうか。</p> <p>⑤各委員が、関係する機関で、博物館の効用を語ってもらうこと(これまでもそれぞれやっておられると思いますがさらに)も大切な役割だと考えています。とにかく関心を持ってもらう、目を向けてもらうことだと思います。</p>	3
	資料貸出し	年10校	2校				
	授業支援	年10校	7校				
	職場体験受入れ	年5校	6校				
	職員研修受入れ	年5校	5校				
②展示解説	実施人数	年10,000人	8,698人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示解説を受けた人数は目標人数を達成することができなかった。展示解説を受けた方々の個人アンケートによると「満足した」「やや満足した」の合計が96.4%で、満足度が高かった。今後も来館者への声かけや事前広報に取り組み、利用者の興味や関心を高めるような解説を工夫し、多くの来館者に展示解説を実施していく。</li> </ul>	2	<p>⑥当館の展示解説員の活躍には目を見張るものがある。職員が現場を一番よく知る彼らの意見に耳を傾け、その企画や運営を後押しする協力体制を築いていることがうかがえる。</p>	
③博物館講座等	主催講座(地域講座含む)	年30回	37回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催講座は、普及講座(23回)(荒天により2講座中止)と特別展関連講座(6回)、民家園伝統文化体験講座(5回)(新型コロナウイルス感染拡大防止等のため2講座中止)どこでも博物館(3回)であり、地域講座数ともに目標をクリアすることができた。受講者数も目標値を大きく上回るすることができた。</li> <li>・今後も興味ある充実した内容の講座を企画すると共に広報活動の工夫に力を入れながら継続していきたい。</li> </ul>	4	<p>⑦どこでも博物館を実際に体験した小学校の職員の話ですが、「台風接近のため悪天候になりましたが、準備や片付けを予定通り行っただきありがたかった。」「地区の方もとても喜ばれていました。」とのことでした。</p>	
	地域講座	年10回	11回				
	受講者数	年1,500人	3,169人				
④民家園の活用	民家園まつり	年1回	0回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神楽公演は10月延岡の三川内、2月日南の山宮の2回実施し、多くの来場者があり好評であった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月に予定していた民家園春まつりと宮崎の大塚神楽公演は中止となった。</li> <li>・毎週第3土曜日に開催している昔話公演は7・8月に怖い話を特集し、60名を超える幅広い年齢層の参加があった。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月は中止し9回の開催であった。</li> <li>・その他の催事として、レコード愛好会と共催でのレコードコンサート(10月)の他、民家園ボランティアによる昔のくらし体験や正月準備体験を実施することができた。</li> <li>・今年度から本格的に民家園利用事業制度をスタートさせた。また、新たな媒体を使ってボランティア募集を行ったことに加え、ボランティアとの意見交換会を通じて意識の向上を図るとともに、運用面の改善に取り組むことができた。</li> </ul>	2	<p>⑧民家園を活用した神楽公演は前年度に続いて良い企画だった。招いた保存団体も手抜きすることなくしっかり演舞していたし、若い舞手がやる気を起こしてきたなどと年配舞手から聞く。観覧者も予想外に多く最後まで熱心に見ていたし、近年県民の神楽に対する関心が高まっている証と思われる。</p> <p>⑨3月に企画・計画・準備されていたであろう活動について、中止しなければならなかった事、大変残念に思います。御苦労に感謝します。今後は、withコロナを考慮し、目標値の達成よりも、内容の充実、講座や他との連携の在り方を再考するチャンスかと思えます。</p>	3
	伝統芸能公演	年1回	2回				
	宮崎の昔話公演	年10回	9回				
	その他の催事	年6回	6回				

⑤関係機関との連携	職員の派遣・招聘	年20件	101件	・職員の派遣は自然史系を中心に植物分野と地質分野が中心で学校教育機関に講師や委員として職員を10件15回派遣し、関係機関等の職員の招聘では20件、22名であった。館外資料の貸出しは10機関、その他、資料の貸し出しは31件であった。研究機関との連携については30件であった。	4	⑩宮崎県博物館等協議会の幹事館として、新型コロナウイルス感染拡大防止対応において参加園館の情報収集やその後の情報提供等を積極的に実施したことは、大いに宮崎県の博物館のリーダーとしての役割を果たした。
	資料の貸し借り					
	研究会への参画					
	共催事業等					
⑥博物館と福祉施設の連携	施設受入件数	年200件	140件	・福祉施設の来館は、展示解説員が主体となって高齢者を対象に実施している「博物館で思い出を語ろう！」事業を多団体期（5・8・10・11月）の月曜日のみ実施した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から3月は休館したため、目標を下回った。 ・今後は、福祉施設におけるテーマ回想法だけでなく、福祉施設や高齢者団体におけるコース回想法での活用を広く広報し、様々な施設や団体のニーズをふまえた事業展開を図っていく。	2	
⑦レファレンス対応	相談件数	年1,000件	622件	・一般(397件)、マスコミ(109件)、公共機関(38件)、学校(26件)等からの相談が計622件あった。相談件数は昨年度より249件減り、目標値に届かなかった。 ・今年度は夏の特別展が無かった事やホームページ等による積極的な情報発信により、問合せが減ったためと考えられる。	2	
⑧研究発表会の開催	研究発表会	年1回	0回	・自然科学系の9団体で構成される県内研究団体の発表会を3月に計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を中止した。	1	⑪「宮崎の自然」研究報告会が、コロナウイルス感染防止のため中止になり残念だったが、県内自然系研究団体が一堂に会する貴重な機会なので是非今後も続けてほしい。また、生物系の学会の九州支部（日本動物学会、日本生態学会）や九州沖縄植物学会などとの連携の検討もお願いしたい。
⑨博物館友の会との連携	講師派遣 (博物館→友の会)	年5回	講師派遣 2回	・学芸課職員（植物・民俗）の講師派遣を2回実施した。 ・また、友の会会員による博物館講座支援は、植物観察、干潟観察など4回あった。（植物2回、動物1回、考古1回） ・友の会の会員による写真展「はくとも写真展」に館職員の写真も提供し、友の会会員と連携して展示作りを行った。	3	
	講座支援 (友の会→博物館)		講座支援 4回 計 6回			

(5) 情報発信

項目	評価指標		元年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①情報発信の充実	広報紙発行	年2回	2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙「森の通信」を6月と9月の2回(66号・67号)発行し、県内の学校や博物館、図書館、公民館等の公共施設などに配布するとともに、ホームページにも掲載した。</li> <li>・博物館の情報を報道機関に提供する報道処理件数は69件であり、4年連続増加したものの目標を下回った。その報道処理等によりマスコミが報道した件数は、203件であった。</li> <li>・今後も館内の広報推進会議で、新たな広報手段に取り組み、情報発信に努めていく。</li> </ul>	2		<p>①情報発信については、広報推進委員会の設置をはじめきめ細かく対応し、多方面に地道なアプローチを展開しており、非の打ちどころがない。県内のおもな文化施設にはどこでも、当館の特別展のチラシと「みやはくカレンダー」が置いてあるという印象さえ受ける。「はくぶつかん」の呼称に替えて愛称のニュアンスのある「みやはく」を採用するなど、細やかな工夫もうかがえる。</p> <p>②情報発信については、SNSの活用にシフトしており、博物館としては、非常にうまく対応していると思う。しかし、まだ、従来の新聞やテレビなどに対する情報提供も重要なツールであり、今後、より積極的に活用して欲しい。</p>	3
	報道処理・情報提供件数	年120件	69件					
②ホームページの充実	更新回数	月5回	月32.2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館ホームページへのアクセス数は、年1,097,717件となり、前年度より5割以上大幅に増え、目標値を達成できた。これは、更新回数が昨年度より増えたこと、さらに今年度より開始したSNS(Instagram)において、特別展や講座の様子、季節ごとの情報などを発信でき、情報発信手段として定着してきたことが要因と思われる。</li> <li>・SNSではタイムリーで博物館の身近な話題提供などを積極的に行い、Instagramでは年間92件、Facebookでは年間205件、Twitterでは年間212件の投稿を行う事ができた。今後も効果的に活用していきたい。</li> </ul>	4	<p>③ホームページは大変充実していたと思います。今後も上手くSNSを活用して頂けたらと思います。</p> <p>④ホームページのきめ細やかな更新やSNSなどインターネットを活用したりリアルタイムでの情報発信に積極的に取り組んでおり、結果、ホームページのアクセス数の大幅な増加に繋がったことは、大いに評価できる。今後は、動画(YouTube等)による情報発信等、その手法の裾野を広げる工夫を行い、インターネット活用による情報発信の充実強化に取り組んで欲しい。</p> <p>また、来館者へのアンケート調査結果にもあるように、博物館情報の取得手段として、ホームページに次いで、ポスター・チラシも多いので、年代ごとに人が多く集まる場所等を検討するなど、効果的な配布先の選定にも努めて欲しい。</p> <p>⑤新型コロナウイルス感染症拡大により、イベント中止のため入館者数は減少しているが、博物館ホームページへのアクセス数が大幅に増えたことは努力がうかがえる。特にSNSにより、さまざまな講座の様子や情報がとてもよく分かり、博物館が非常に身近に感じられる。今後も積極的に行ってほしい。</p>	3	
	アクセス件数	年500,000件	1,097,717件					

(6) 経営

項目	評価指標		元年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
①博物館協議会や県民の意見の尊重	アンケート収集件数	年2,000件	1,487件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート収集件数については、空調設備改修工事のため、夏の特別展が開催できなかったことにより、収集件数が減少した。また、本館サービスに対する満足度は91%となり、目標を達成できた。</li> <li>・今後もアンケートの積極的な回収に努め、利用者の意見を館の運営に活かしていく。</li> </ul>	2		<p>①夏の特別展が開催できなかったこと、コロナの影響で閉館期間があったことで、大変な御苦労があったと思うが、職員研修や防災訓練などの経営の基礎となる部分をしっかりと実施できている。また、アンケートの満足度も91%となっており、職員の方々は自信と誇りを持って、業務に従事していただきたい。</p>	3
	満足度	70%	91.0%					
②職員の資質の向上	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>①基本研修</li> <li>②県外研修等</li> <li>③展示解説員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員を対象とした基本研修では、コンプライアンス及び危機管理等について、4月、9月に実施するとともに、3月には学芸課職員による調査研究報告会を研修の機会とし、年3回実施した。</li> <li>また、県外研修として、関係職員が文化財担当者専門研修、IPMセミナー等に参加し、職員の研修機会の確保と資質向上を図ることができた。</li> <li>・展示解説員の研修として、宮崎市青島と日南市油津を訪れ、植物、地質、民俗などの実地見学を行い、知識の習得に努めた。</li> <li>・今後も引き続き館内外の研修の機会を確保し、職員の資質向上に努める。</li> </ul>	3	3	<p>②職員の資質向上のための研修の充実・向上にしっかりと取り組んでおり、この取組が、来館者アンケートにおける「本館サービスに対する満足度」の91.2%にも繋がったと思われる。全世代にとっての魅力的な博物館となるためには展示内容や設備の充実等と併せて、職員サービスの向上を図ることが大変重要であり、研修内容の充実等により職員の育成に一層取り組んで欲しい。</p> <p>③学芸員をはじめ展示解説員すべての職員の魅力が入館者の満足度につながっているため、今後も研修を深めてほしい。</p>	3
③危機管理体制の強化	防災訓練	年2回	3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に、全職員を対象とした危機管理マニュアル及びAEDの操作方法に関する研修を実施、6月、9月には地震や火災を想定したシナリオの無い避難訓練を実施、1月は宮崎北消防署・消防団及び埋蔵文化財センター分館職員と合同で民家園において「文化財防災デー」に合わせた防火訓練を実施するなど、職員の危機管理意識やスキルの大きな向上が図られた。</li> <li>・今後も、利用者の「安全」「安心」の確保のため、危機管理体制の強化に努める。</li> </ul>	4		<p>④避難訓練や防火訓練、職員の研修が実施され危機管理体制が強化し、職員の意識やスキルが向上してきていることがうかがえる。今後も継続してほしい。</p>	

(7) 全体を通じての意見

項目	評価指標		元年度実績	内部評価			外部評価	
	内容	目標値		評価内容及び改善策	個別評価	総合評価	評価・意見	評価
全体							<p>①新型コロナウイルス感染症が懸念される時代に、入館者数やイベント開催回数などを求めることは適当でなかろう。治療薬等が開発された後に、多くの県民に貢献できる博物館であるための底力を蓄える必要があると考える。この際、これまで日々の業務が多忙であったために十分に進捗していなかった業務（たとえば未登録資料の整理登録や修復など）はどうなのであるかを進められること、そして調査のまとめや研究を腰を落ち着けて進められることを期待する。</p> <p>②コロナが終息した時期に博物館を楽しんでいただくためにも、本体の立て替えを検討されることを提案したい。貴館には建設当初である昭和46年の設備のままのところがあちこちにあり、またリニューアル20年以上が経過し、資料の保存管理にも支障が生じることを懸念している。自治体の財政は厳しいであろうが、県の大切な文化資源を将来に継承するため、施設・設備の必要性を主張していただきたい。</p> <p>③火曜日の休館を原則月曜日休館に戻す。 ある知事が月曜休館を火曜にかえたと聞く。県立図書館、西都原考古博、市町村の資料館など月曜休館が殆ど。火曜休館を知らない県民、来県した観光客など博物館にきて初めて休館を知ることになる。館運営に支障がなければ月曜休館に戻した方がよいと思う。</p> <p>④平野部の農家家屋の移築 昭和47年から県内を代表する歴史的、建築学的に価値のある民家4棟が移築され、県民の誇れる屋外展示物となっている。しかし恐らく最も多く、最もポピュラーな平野部民家（農家）、俗に田の字型といわれる民家の移築がなされていない。移築に際して県内外の建築研究者が協議し、今ある4棟に決定したのであるが、どこにもある、いつでも見られる田の字型は、あまりに普通で特徴がなく話題にならなかったのか。南側にオモテザ（トコノマ）、シモザ、北側にナンド、シモザの4部屋の間取り、それに穀櫃などを置く土間と母屋に作り出しのカマヤ（台所）を配置する、この農家こそ宮崎を代表する民家と思う。</p> <p>⑤世界を席卷した新型コロナウイルス感染症の拡大は、人の集まる文化施設である博物館にも大きな課題を投げかけている。これまでの評価基準では当館の価値が測れない、さらにいえば、評価そのものが不可能となるような、困難な時代の到来を感じる。</p> <p>⑥4年間、皆様の取組にかかわらせていただき心から感謝いたします。県民として今後の皆様の御活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。</p>	